## PRG1 (5): 関数と状態

脇田建

# 授業の後半に 小テストを実施します

# Q1の復習 置換を用いたプログラムの理解

### 置換を用いたプログラムの理解

### プログラムを詳しく眺める

```
      def areaOfDisk:
      //計算の方法の名前の宣言

      (Double) => Double
      //受け取る値と結果の値が属する集合を宣言

      =
      (r) =>
      //入力をあらわす変数を宣言

      {3.14*r*r}
      //計算方法を宣言

      areaOfDisk(5)
      //areaOfDisk の変数 r を 5 に置換して計算せよ
```

val radius = 5

3.14 \* radius \* radius

参照された名前は 定義で置換 val radius = 5

3.14 \* radius \* radius

val 名前 = 定義

\* radius: 半径

```
val radius = 5
```

```
3.14 * radius * radius
```

val radius = 5

参照された名前は定義で置換

3.14 \* radius \* radius

3.14 \* 5 \* radius

```
val radius = 5
```

```
3.14 * radius * radius
```

$$3.14 * 5 * radius$$

$$3.14 * 5 * 5$$

式の要素がすべて値に がなったら計算

$$3.14 * 5 * radius$$

$$3.14 * 5 * 5$$

val radius = 5

3.14 \* radius \* radius

3.14 \* 5 \* radius

3.14 \* 5 \* 5

式変形で値が得られた 78.5 ら評価の停止

## まとめ:名前参照の意味

- \* (部分) 式が名前を含んでいる限り
  - \* 名前を定義で置き換え: val 名前 = 定義
- \* (すでに (部分) 式は名前を含まないので) 評価

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
   3.14 * radius * radius
}
areaOfDisk(5)
```

- (1) 局所環境の構成 {...} のなかで作業
- (2) 引数の受け渡し 実引数の値 → 仮引数
- (3) 関数定義の置換 関数呼出 → 関数定義

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
   3.14 * radius * radius
}
areaOfDisk(5)
```

仮引数

- (1) 局所環境の構成 {...} のなかで作業
- (2) 引数の受け渡し 実引数の値 → 仮引数
- (3) 関数定義の置換 関数呼出 → 関数定義

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
   3.14 * radius * radius
}
areaOfDisk(5)

$$\frac{\$\$\$}$$
```

- (1)局所環境の構成
  - {...}のなかで作業
- (2) 引数の受け渡し 実引数の値 → 仮引数
- (3) 関数定義の置換 関数呼出 → 関数定義

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
   3.14 * radius * radius
}
areaOfDisk(5)
```

- (1)局所環境の構成
  - {...}のなかで作業
- (2) 引数の受け渡し 実引数の値 → 仮引数
- (3) 関数定義の置換 関数呼出 → 関数定義

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
   3.14 * radius * radius
}

areaOfDisk(5)

{
   areaOfDisk(5)
}
```

#### 関数呼び出し:

- (1) 局所環境の構成 {...} のなかで作業
- (2) <u>引数の受け渡し</u> 実引数の値 → 仮引数
- (3) 関数定義の置換 関数呼出 → 関数定義

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
   3.14 * radius * radius
}
areaOfDisk(5)
{
   areaOfDisk(5)
}
```

「val 仮引数 = 実引数」という 宣言があったつもりになる

- (1)局所環境の構成
  - {...}のなかで作業
- (2) <u>引数の受け渡し</u> 実引数の値 → 仮引数
- (3) 関数定義の置換 関数呼出 → 関数定義

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
  3.14 * radius * radius
areaOfDisk(5)
  areaOfDisk(5)
  val radius = 5
  areaOfDisk(5)
```

#### 関数呼び出し:

- (1)局所環境の構成
  - {...}のなかで作業
- (2) 引数の受け渡し 実引数の値 → 仮引数
- (3) 関数定義の置換

関数呼出→関数定義

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
  3.14 * radius * radius
areaOfDisk(5)
  areaOfDisk(5)
  val radius = 5
 areaOfDisk(5)
```

#### 関数呼び出し:

- (1)局所環境の構成
  - {...}のなかで作業
- (2) 引数の受け渡し 実引数の値 → 仮引数
- (3) 関数定義の置換

関数呼出→関数定義

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
  3.14 * radius * radius
areaOfDisk(5)
  areaOfDisk(5)
  val radius = 5
  areaOfDisk(5)
  val radius = 5
  3.14 * radius * radius
```

#### 関数呼び出し:

(4) 関数呼び出し式が消滅 したら,変数参照を順次置 換して,最後に評価

```
def areaOfDisk(radius: Double): Double = {
  3.14 * radius * radius
areaOfDisk(5)
  areaOfDisk(5)
  val radius = 5
  areaOfDisk(5)
 val radius = 5
  3.14 * radius * radius
```

## クイズ: fact(3) の意味を計算せよ

#### 関数呼び出し:

- (1)局所環境の構成
  - {...}のなかで作業
- (2) 引数の受け渡し 実引数の値→仮引数
- (3) 関数定義の置換 関数呼出 → 関数定義

要注意

```
def fact(n: Int): Int = {
    if (n == 0) 1
    else n * fact(n - 1)
}

fact(3)
```

## 記憶する関数 (HtDP 34)

### Memory for Functions

- \* ここまで学んできた関数は評価結果にのみ意味があったが,多くのプログラムはその動作についての記録を 残すことに意義がある.
  - \* 例:アドレス帳

## 実行履歴を記憶するプログラム アドレス帳の例

```
println(f"あやの電話は ${lookup('aya, address_book)}")
add('aya, "090-1234-5678")
println(f"あやの電話は ${lookup('aya, address_book)}")
```

# 実行履歴を記憶するプログラム 信号機シミュレータの例

#### Next ボタンの働きについて考えてみよう

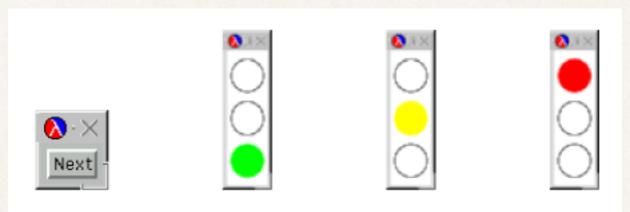
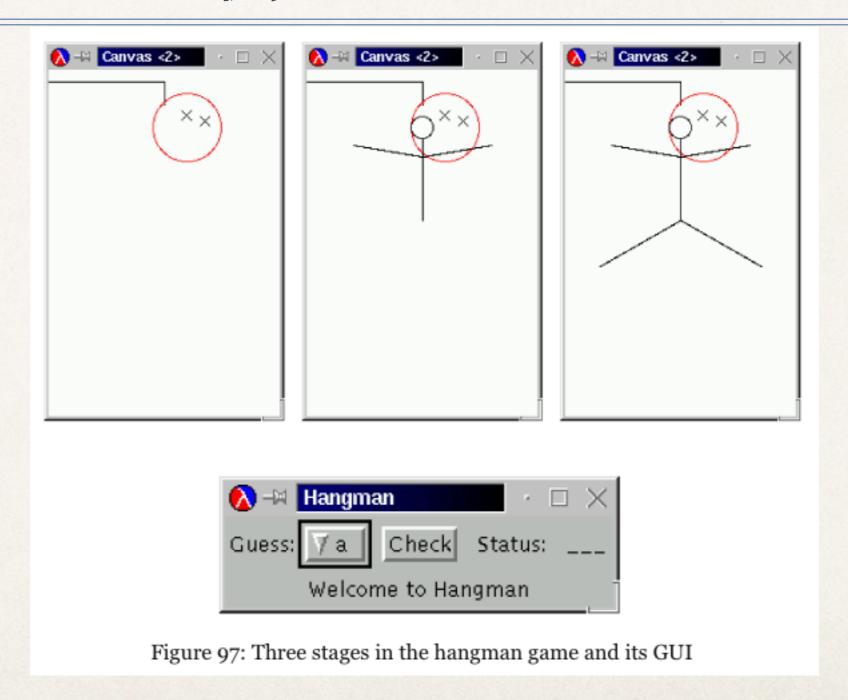


Figure 96: The three stages of a traffic light canvas and its GUI

### 実行履歴を記憶するプログラム

### ハングマンの例



Checkボタンの働きについて考えてみよう

### 可変変数と代入

- \* var v = 初期値 / / 可変変数(更新可能な/mutable)の宣言
  - \* v // 変数の参照は val 宣言された定数の参照と同様
  - \* v = ... // 代入式を用いて変数の値を更新できる. 代入式全体としての値は()でその型は Unit
- \* 混乱しがちな諸概念
  - \* 定数宣言: val v = 値 / / 定数宣言は値に名前を与える
  - \* 同値関係: x1 == y1 // 同値関係は == であって = ではない

### 自習

- \* Scalaのインタプリタを起動し、
- \* var x = 0 のように変数を宣言した上で、代入 x = x + 1 によって、x に保存されている値が変化する様子を観察しなさい.
- \* つぎにこの現象を「置換を用いた理解」で説明できる か考えなさい。

### 代入を含むプログラムの理解

なにかがおかしい

```
{
  val z = (x = x + 2)
  x
}

{
  val x = (3 = 3 + 2)
  3
}
```

### 代入を含むプログラムの理解

- \* 代入式には特殊な意味が与えられているため、単純な置換を してはいけない
  - \* 代入式の左辺は置換しない
  - \* 代入式の意味 右辺の評価値を左辺の変数の新しい値とする
  - \* 代入式の利用の前後でプログラムの状態が変化する. 代入式の評価以前の値で、代入式に続く式の評価をしない

### 代入の意味

- (1)変数zを初期化する前に代入式を評価する
- (2) どの変数を置換するかに注意

### 代入の意味

代入に続く式に対する置換は 代入の意味を反映してから行う

### 代入式の右辺について置換

```
var x = 3
 val z = (x = x + 2)
var x = 3
 val z = (x = 3 + 2)
```

### 代入の右辺から変数が消えたら評価

```
var x = 3
 val z = (x = 3 + 2)
var x = 3
 val z = (x = 5)
```

### 右辺の評価値で変数の値を更新

```
var x = 3
 val z = (x = 5)
var x = 5
 val z = ()
```

- (1)変数の値を更新
- (2)代入式の値は (): Unit

### xの値を通常どおりに置換

```
var x = 5
 val z = ()
var x = 5
 val z = ()
```

### xの値を通常どおりに置換

```
var x = 5
 val z = ()
var x = 5
```

{...} の意味は,この中身のうち,一番最後の要素の値

## 見た目、ほぼ同じだが、

解釈

{ ... }

```
    1 という関数に { ... } という内容の関数を
    * val y = 1 引数として渡す意味に解釈. 以下と同義 { ... }
    1({ ... }). 1は関数ではないので、当然、エラー.
    * val y = 1 空行がはいると定数定義に続くブロックと
```

空行が重要な意味を持つことがある